

教育ニュース「響学 共動」 No. 1

平成 22 年 4 月 12 日

広島市立吉島小学校

子どもたちは進級した喜びを抱き、加えて 55 人の 1 年生を迎え、児童一人ひとりが元気で輝き続けられることを志向する学び舎（「元輝学舎」）での生活がスタートしました。心も新たに成長しようとしている子どもたちに姿に感動・感激の日々が続いています。

始業式では、子どもたちに 3 つの願いをしました。

「年中夢求」の一年間にしましょう

今日叶えたい夢（目標）、明日叶えたい夢、時間をかけて叶えたい夢など、夢を毎日もった学校生活を。

「∞」の成長の根っ子を伸ばし鍛えていきましょう

既に表出し自覚できている成長の根っ子を伸ばす、自分のなかに潜在する成長の根っ子を鍛え、表出させる学校生活を。

小さき「人」から大きな「人」になる体験を増やしていきましょう

周りの人に支えられ周りの人を支える体験を数多く経験し、「響学 共動」（意味：人と繋がり、心を響かせ学びあい、共に前へ前へあゆむこと）のよさを味わえる学校生活を。

これらの願いにチャレンジすることは、学校などでの生活を楽しく生き生きさせてくれます。そのために必要なものがあります。

例えば、「〇〇習慣のすすめ」

その 1 早寝早起き（睡眠時間の確保）・朝ごはんを食べる習慣のすすめ

食事と脳の働きについてある書物によると、

人間の脳が働くとき、必要なものがブドウ糖です。グルコースともいわれ、食物の炭水化物から糖質やでんぷんを分解したものです。

1 回の食事で蓄え得られるブドウ糖は、おおよそ 60 グラムですが、脳が働くために必要なブドウ糖の量は 1 日 1600 ～ 200 グラムといわれています。（1 日 3 食の必要性が）

朝食をきちんととることによって、血糖値が安定し適切に保たれるため、脳の食欲中枢が満足し、気分も落ち着き学習能力も向上する。・・・と。

その 2 ていねいで美しい言葉を使う習慣のすすめ

ことばと脳の働きについてある書物によると、

ある大学での臨床によれば、ていねいな言葉を話すと、自分も相手も脳の前頭前野のうち攻撃的な衝動を抑える部位が活性化し情緒が安定するとともに、集中力が増すという結果を得ることができたそうです。・・・

その言葉には、「おはよう」「お先にどうぞ」「ありがとう」「たすかったよ」「ごめんね」「だいじょうぶだよ」「よくやったね」「気にしなくていいよ」「その調子よ」「この次ががんばればいいじゃないの」「〇〇さんはどう思う」等。

日常生活のなかで、ていねいで美しい言葉を多くみつけ、使うように努めていってほしいです。私たちの卒先垂範の行動も必要ではないでしょうか。

その 3 本をよむ・濫読する習慣のすすめ

読書と心の働きについてある書物によると、

山口瞳さんは、自分自身の経験をふまえて、「濫読せよ」とよびかけています。

まずはいろんなジャンルの本をたくさん読むこと、読書量を増やすことが大切で、それは想像力・集中力を高めるだけでなく、日常生活を豊かなもの、人間関係をより好ましい状況にもしてくれると力説されています。